

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和元年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	筑波大学	整 理 番 号	1 8 0 4
プログラム名 称	ヒューマニクス学位プログラム		
プログラム責任者	清水 諭	プログラムコーディネーター	柳沢 正史
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、学内、海外連携大学、研究機関の研究者の合同による教育・研究体制が構築されており、生命医科学と理・工・情報学の両分野の連携によるバイディシプリンの分野として、学際的な教育研究を世界的に牽引することが期待される。 ・学部からのシームレスな接続のため、プレアドミッションプログラムなどが実施されている。 ・CYBERDYNE 株式会社をはじめとして産業界との連携も期待できる。本プログラムに興味を持つ企業や連携に賛同する企業を集めた連携協議会を設置したほか、プログラムとの共同研究やスポンサーシップに関する説明会も開催している。今後も企業等との連携に係る催しの場を継続的に設けることとしており、プログラムの継続性と発展性が感じられる。 ・メンター制度(ダブルメンター、リバースメンター)が機能しており、リバースメンターを通じ学生の提案による異分野の研究者による共同研究が開始されるなど、本プログラムが進める分野融合教育・研究に有用である。 ・初年度の募集状況は、出願者は17名(うち留学生は8名)、合格者は10名(うち留学生は3名)であり、合格者全員が入学した。入学試験は夏冬の年2回が予定されており、今後は入学定員(15名)を充足できる見込み。また、海外での入学試験も準備されており、留学生の積極的な確保の努力がみられる。 ・本プログラム用のe-learningシステムを構築し、医学教育コンテンツの収録が開始されている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、全学的な組織再編等の取組の一環として位置付けられている。筑波大学が進める大学院改革構想は、学生がさまざまな教員から指導を受けるダブルメンター制や、リバースメンターを通じて異分野の情報が入ることで教員が新たな研究テーマを発見し、あるいは教員同士が協働していくという要素を取り入れることが想定されており、本プログラムはその先行事例となっている。 ・大学院全体の教育改革に対して、本プログラムのどの部分をどのように波及させるかを明確かつ具体的に示す必要がある。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学した学生の満足度は高いものの、現状の入学実績としては定員割れしている状況である。医学分野以外からの応募を増やす、他大学出身者や留学生の円滑な応募にも引き続き配慮していくなど、志願者数の増加に努めることが必要である。 ・本プログラムの学生が自分の専門と異なる分野の授業等を受講しても十分な対応を受けられていないように見受けられるため、本プログラムの学内普及活動をさらにを行い、学内教員の理解と協力を十分得ていくことが望まれる。 ・また、専門以外の分野の授業が理解しにくいとの学生からの意見もある。学生が第二の学問分野を理解するためには、基本的なポイントやエッセンスがわかるような内容 			

であることが必要であり、工夫することが望ましい。

- 修了審査に当たり、査読付き国際誌の原著論文相当の研究成果を要件としているが、学位プログラムの質保証のためにも、審査において求める研究成果の基準を定めるとともに、学生にも周知する必要がある。
- 志願者数の確保のためにも、修了後のキャリアパスをより具体的に明示することが望まれる。
- 財政的な面を考慮すると事業の安定的な継続の観点からも、企業との連携協議会により多数の企業を集める工夫が望まれる。